

# こころのはな



## 道徳の時間の様子

### 5年生 「のりづけされた詩」

『のりづけされた詩』は、主人公の和枝が本にある詩を写して自分の詩として提出してしまったことを後悔して、新しい詩を詩集にのりづけするお話です。写すという行為をしてしまう人間の弱さや、和枝が先生に本当のことを打ち明けるまでのつらさや苦しさを捉えることを通して、誠実に明るい心で生活することの大切さを考えることができるお話です。



授業では、写してしまった時の気持ちから、いけないことだとわかっていてもしてしまう人間の弱さについて考えました。また、主人公はどんな思いから、自分のしたことを先生に打ち明けたのかについて、みんなで話し合いながら深く考えました。「写したことで罪悪感があったけれど、打ち明けることでスッキリした」「先生に話すのは勇気がいるけれど、もやもやした気持ちがなくなる」と、自分なりの表現を使って、主人公の気持ちに寄り添うことができました。



授業の終わりには、「自分の経験と照らし合わせて、今日の授業で思ったこと」を道徳ノートに書きました。過去よりも、これからの未来に、今日の授業を生かしてほしいです。

### 学習の振り返りより

- 自分もつらかったことがあるので、相手を喜ばせることは言ってもいいけれど、相手を悲しませることは言いたくはないです。
- 友達にいやなことをしてもメリットはないし、自分も罪悪感を感じて生きていかなければならないから、これからはしたくないです。
- これからも、暴力でも言葉でも、相手の心を傷つけることをせずに、友達と楽しく接していきたいと思いました。
- これまでに友達に悪いことをしてしまったこともあるけれど、これからの人生は、もやもやをなくして友達のよいところを伝えてきたいです。